

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070501190		
法人名	有限会社ひまわり介護サービス		
事業所名	グループホーム太田サンフラワー		
所在地	群馬県太田市台之郷町307		
自己評価作成日	平成30年7月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町3-9-8		
訪問調査日	平成30年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・基本理念に基づき運営方針を着実に実施する。 ・利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援している。 ・常にご利用者の立場になり考え、ご利用者の行動の意味を掘下げ、そのご利用者にあったケアをスタッフで統一する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者の「自分の親だと思って接する」といった思いや理念を職員がよく理解し、日々のケアにあたっている。その姿勢が利用者のしぐさや表情に現れるサインを見逃さず、利用者に寄り添った接遇に繋がっている。重度化に伴って入浴に至る動作が億劫となり、拒否をしてしまう利用者には、毎日声掛けをして湯船に入れば気持ちいいという声が聞かれている。入浴を楽しみにしている利用者には、その希望に沿って入浴を実現させている。これらの職員の取り組みは、本人本位のケアの実践とうかがえる。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全職員で共有し、日常業務で実践するため、朝礼での唱和や、ミーティング等の中で話をし確認し合っている。	新入職員には管理者が理念の説明をしている。職員は朝礼で唱和し、申し送り時はいかに理念を実践の場に反映させるか職員間で確認し合い共有している。管理者が日常的に軌道修正している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、敬老会、いきいきサロン、資源回収等の地域活動に積極的に参加している。また、地域の人々にホームの行事に参加していただくなど交流を深めている。	地域の敬老会やいきいきサロンに出席している。また傾聴、絵手紙、編物等の地域のボランティアを受け入れ、ホームの行事にも参加を呼びかけ、交流を深める取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から時々、認知症の相談を受けている。また、人材育成の貢献として実習生の受入は、積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、利用者、家族・行政・自治会関係者等に出席していただき、ホームから説明、報告とともに意見を受け、それをサービス向上に活かしている。	隔月毎に利用者、家族、地域代表、区長、民生委員、地域包括支援センター出席の下、開催している。利用者状況、行事報告等を通して意見交換し、また地域の情報を得てサービス向上に活かしている。	運営推進会議の主役ともいえる家族の出席を促す工夫と努力を続けてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらうだけでなく、認定更新の機会等に訪庁し、市の協力を得て、サービスの質の向上に取り組んでいる。	日常的な報告は管理者が市に出向いている。認定調査の立会い、介護保険の代行申請等を行い行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束の研修等で正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。また今年度より身体的拘束適正化検討委員会を立上げ、適正化に向けたさらなる理解促進と再発防止につなげていく。玄関の施錠に関しては、職員の見守り等により施錠していない。	職員が身体的拘束適正化検討委員会に参加することで、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は開錠し、居室にも鍵はかけていない。スピーチロック等目に見えない拘束への理解も深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等により虐待の防止について理解促進を図っている。また、常に虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見に関する制度を社内や社外の研修会を通じて理解を深め、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は、ご利用者、ご家族の不安・疑問点を良く聞き、時間をかけて説明を行い、理解・納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族等とは、何でも話せる雰囲気作りをしており、意見や要望等はミーティング等で話し合い、運営に反映させている。	会話中の言葉やその時々様子から利用者の意見や要望を察し、職員間で共有している。家族とは面会の際のやり取りから具体的な要望等を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを大切にし、打合せ等の際、職員から意見を聞き、その意見を元に改善に努めている。	日頃から、また業務中であっても話ができる雰囲気作りを大切にし、管理者は職員からの意見や提案を聞く姿勢をもってそれらを集約し、実際のケアや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベル向上は、施設のレベル向上に直接つながると考えている。新しい資格への挑戦を促したり、各自がステップアップを図っていけるような助言など、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が中心となり、指導、勉強会等を行っている。また職員には事業所外で開催される研修会等の受講も推進している。研修結果は報告書を提出してもらい、ミーティング時にその内容を発表していただき、その研修成果を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会への参加や、近隣のグループホームの職員との交流活動を通じ、サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人と面会し、困っている事、不安な事、希望する事等を良く聴き、ご本人が安心できるような信頼関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用料金等の説明はもちろんのこと、家族が困っている事、不安な事などをじっくり聴き、それらを受け止め、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の実状や要望から何を必要としているのかを見極め、他のサービスも含めてより良い対応ができるように説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者への笑顔で優しい声かけを基本にし、散歩やレクリエーション等で信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでのご利用者の様子などをご家族に伝える事により、ご本人を共に支えていくためのご家族との協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理・美容院や、スーパー等での買い物に行くことを支援するなど、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	自宅から馴染みの物を持ち込み、在宅時の雰囲気を変えないよう支援している。また、趣味の将棋、通院、行きつけの理・美容院、体操、散歩等支援し、生活のリズムを崩さないよう心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の個性、長所を最大限に表現できるようにして、ご利用者同士がより良い関係を持てるように職員が間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスのご利用が終了しても、退居先の病院等を訪問し、声かけを実施している。事情があつて他の施設に移っても相談等にはできる限りのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症だから聞いても無理と決めつけないで、日々の行動や表情などからご利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、家族や関係者から情報を得ている。	利用者の表情、行動等から気持ちを察したり、手のしぐさで意思の疎通を図る等、コミュニケーションの取り方を職員間で共有し、利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方から生活歴を聞いたり、ご本人とのコミュニケーションの中から、今まで歩んできたことの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排泄、入浴、バイタルの状況など一人ひとりの日々の変化を記録し、申し送り等で情報共有しながら、ご本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との日頃の関わりの中で、想いや意見を聞き反映させている。作成したアセスメントを基に、ご本人の状況を踏まえた計画書を作成し、目標を立て、介護できるように心がけている。	毎月管理者がモニタリングをし、担当者会議には職員も出席し、計画の内容を把握している。介護計画は3ヵ月毎に見直しをするが、計画が現状に即したものであるかどうかその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が随時、ご利用者の状態を介護記録および申し送り状に記載し、申し送り時に介護支援専門員に報告、介護支援専門員は状況を把握した後に、支援経過に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者一人ひとりのニーズが違うため、その人その人に合った支援の仕方を、その時その時の状況を踏まえ、カンファレンスなどで検討しながら対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア等を随時受入している。民生委員、消防関係や警察などの協力により、施設周辺の安全性の確保に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を大切にし、かかりつけ医の受診を支援している。また、協力病院とも連携して、適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医か協力医か入居時に選択できる。隔週で協力医の往診があり、ほとんどの利用者が受診している。定期的な通院や専門医への受診は家族と職員が連携し、支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師を配置し、看護師と介護職員が共に相談・協力し合い、情報を共有しながら日々の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護支援専門員と、看護師が医療機関と連絡を密にして、容態の確認、退院見込の把握等をしながら、退院後の再受入れがスムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護について、ご本人、ご家族に説明を行い、同意を得ている。情報は共有し、キーパーソンのご家族と話し合い、本人が最後まで安心して生活できるように支援している。	看取りについては入居時に、またその後も段階的に利用者や家族に説明している。職員には看取りの経験者もいるが、勉強会を開き重度化に向けた支援ができるよう日常から取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命講習へ毎年職員が参加し、技能を習得している。応急手当については看護師の指導のもとに訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時に、ご利用者全員が安全に避難できるように消防署立会いの下、年2回の総合防災訓練を行っている。また当日は、区長や地域の皆様にも参加していただいている。	併設5事業所合同で通報、避難誘導、消火訓練を主とする総合防災訓練を年2回実施し、その際地域住民も参加し協力を得ている。また、毎月自主訓練も実施し、食料品、水等の備蓄がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の自尊心を傷つけるような言葉や対応について、研修やミーティングを行い、職員同士注意し合って対応している。個人情報取扱いについては、マニュアルを基に全職員で取り組んでいる。	年長者である利用者への言葉遣いについては、日常から気をつけている。失言があった場合は管理者が注意し、トイレ誘導の際の声掛けも他の利用者にわからないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな発言や行動も否定しないで、その発言や行動の意味を探り、職員間で情報共有しながら、ご利用者が自分自身で決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方その方の今までの生活スタイルを把握し、理解し、ご本人のペースに合わせた支援ができるように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好きな身だしなみやおしゃれができるように支援している。2ヶ月に1回の訪問理容では、ご本人の好みのヘアカットをしていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の食材や新鮮なものを探り入れるなどし、美味しく食べられるように工夫している。食事中は、職員がテーブルに着き、和やかな雰囲気づくりをしている。	利用者の希望を反映した献立を作っている。季節ごとに旬の食材を用い、伝統食、行事食を取り入れて食事を楽しむ工夫をしている。個別で外食に出かけたり、庭でお茶の時間を楽しむこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携し、1人ひとりの体調等を把握し、バランスの良い食事の提供を心掛け、水分補給等の調整にも注意を払いながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促している。歯磨きが不十分なご利用者や義歯のご利用者に対しては、職員が個別の支援をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるように尿意、便意の時間や習慣を把握し、自尊心に配慮しながらトイレ誘導をしている。失敗した場合でも周囲に気付かれないように配慮しながら対応を心掛けている。	排泄チェック表によって利用者の排泄パターンやサインを捉えトイレ誘導している。利用者によっては夜間居室にポータブルトイレを用意する等個別に対応し、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には、水分を多めに摂取していただいたり、食物繊維の多い食事を摂取していただいたりしている。また散歩や体操、レクリエーション参加等を促し、体を動かすようにしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の当日のバイタル等の状況を確認し、声掛け等により本人の意思確認の後、入浴していただいている。湯の中にはゆず湯などの入浴剤を入れて楽しんでいただいている。	入浴は週に2～3回を目安に支援しているが、入浴を拒否する利用者に対しても、いつでも希望に沿って入浴ができることを伝え、介助が必要な利用者に対しては二人介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の個々のご要望、体調や状況を考慮し、生活リズムを崩さないように注意しながら、安心して休息したり、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬できるご利用者は見守りをして確認し、できないご利用者は服薬支援を行い、飲み残しが無いか口腔内の確認を実施している。また服薬後の体調変化の有無を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの趣味や楽しみ、好み等を把握し、散歩、カラオケ、書道、編物、塗り絵、読書、将棋等、できる事をご提供、支援している。また新たな楽しみが見つけれられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩、ドライブ、買い物、外食等、外出することを積極的に支援している。歩行困難なご利用者の方も車イスを利用したまま外出できるように支援している。	日常的には個別で散歩やドライブ、買い物、食事に出かけている。家族の協力を得て外食や帰宅をすることもあり、利用者や家族の希望に沿った外出支援に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者にお小遣い帳を見ていただき、残高を確認していただいている。外出時にはご自身がお金を持って、支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用する際には、他のご利用者に配慮して使用していただいている。手紙は、職員と一緒に散歩や買い物途中にポストに投函するなど、十分な配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間などには、季節の花を飾ったり、四季に合わせた飾り付け等を行ったりしている。飾り付けはご利用者と職員が一緒に考えて工夫して飾り付けている。	天井が高く、広い庭に面した共用空間は木の温もりが感じられ、心地良い音楽が流れている。また利用者同士が気持ち良く過ごせるよう、座席の配置にも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事等は、気の合ったご利用者同士で楽しめるように同席の配慮をしている。また居間にはソファをご用意し、ご利用者がいつでも気軽にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前以前から使用していた馴染みの家具や愛着のある小物等を持ち込んでいただいている。使い勝手の良い、慣れたものを使うことでご利用者の居心地の良さや安心感につながるよう配慮している。	馴染みの家具が持ち込まれ、居室でテレビを自由に観ることができる。手作り作品や写真が飾られ、利用者自身が安心して過ごせる居室作りを家族の助けを借りて実現させている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室等に手すりの設置、玄関はスロープ化している。また、一人ひとりの「できる事」を活かして、必要な目印をつけたり、物の配置などの環境整備に努めている。		